

○司会 続きまして、山梨大学医学部リエゾンアカデミー特進コース部会委員長、杉田完爾先生、宜しくお願いいたします。

○杉田 山梨大学から来ました杉田と申します。宜しくお願いいたします。

私は山梨大学医学部にできましたリエゾンアカデミー特進コースのお世話係を2年前からやっております。タイトルは文科省の推進事業の中の「リエゾンアカデミー研究医養成プログラム 特進コースを基盤にした学部・大学院融合研究教育」です。先ほどリエゾンとは何ぞやという質問が出ていましたが、リエゾンは融合とか橋渡しとかいう意味で、サンク・ユーがサンキューになるみたいな感じです。

先ほど急にこのスライドを入れたんですけれども、佐々木先生が秋田県横手市の出身だと聞いてびっくりしました。私も横手市出身で、佐々木先生が南小学校で僕が北小学校です。この写真が佐々木先生先からお話が出ましたかまくらです。この写真が数年前にB-1グランプリを取った横手焼そばですが、非常に文化度の低い焼きそばです。横手市の近くには、稲庭うどんという素晴らしい麺類があります。

それでは、山梨大学のリエゾンアカデミー研究医養成プログラムについて話をさせていただきます。最近、基礎の研究医が非常に減ってきていて、問題となっています。新臨床医研修制度が始まってから、特に減ってきたというふうには言われています。山梨大学は、この基礎研究を志す医学生を継続的に養成する教育プログラムの構築を目的として申請いたしました。医学生の時から基礎研究を奨励・支援し、医学部卒業後の研究にリエゾンさせ、融合させて、基礎研究医を増やしたいというのが目的です。

山梨大学では、2006年からライフサイエンス特進コースというのを医学部で設置しておりまして、これを基にこのプログラムがスタートしました。簡単にライフサイエンス特進コースを紹介させていただきます。昔から大学では、研究に興味のある学生がそれぞれの講座を訪ねて、結構研究をやっていたんです。山梨大学では2006年からシステミックに支援しようということで、特進コースというのを作っています。入学時にこういうコースがあることを紹介し、研究に興味のある学生さんを集めて、学生と講座とマッチングをして、各講座に配属されて研究を開始いたします。最初は基礎系の講座だけだったんですけれども、私は小児科医ですけれども、臨床系の講座も参加するようになって、だんだん加速されていきました。前からも少しはあったわけですが、研究成果を国内外の学会で学生が発表する、英文論文をファーストオーサーで投稿する、講座の実験を手伝うのでコオーサーとしても入ることになって、この成果がだんだん拡大いたしまして、2008年から5年連続で日本学生支援機構優秀学生顕彰学術の部大賞を受賞しています。これらの実績を基として申請を行い、このプログラムが採択されたということがございます。

採択されてから、リエゾンアカデミーのホームページが作られました。基礎研究医への新しいキャリアパスということで、このプログラムは文科省から支援を受けているということも明記しております。

リエゾンアカデミー運営委員会の委員長は、今日もいらしていますけれども、医学部長の武田先生で、これがファーストページです。そして、これがリエゾンアカデミーの全体像です。すごいビジーなので分かりにくいかもしれませんが、この中にリエゾン・オフィスというのがあり、全体を統括しています。リエゾン・オフィスには専任の事務の方と専任の教員、安村先生、平山先生が実質的に頑張っていてくださっています。マイスター制度というメンター制度みたいなものもあります。そして、学生の自主活動組織YAMCHERというのがあります。特進コース生は研究活動をして、色々な条件があるんですけども、それが認められると修了認定がされ、そして、卒業後に博士課程へと進めば、早期に学位を取れます。ここでは基礎研究医となっていますが、一度臨床に戻ってまた基礎をやったり、あるいは臨床をしながら基礎研究をするという意味を含めて基礎研究医というふうになっております。

これは、教員側のリエゾンアカデミー運営委員会で、定期的に委員会を開いています。1回置きに学生も参加しています。また、YAMCHER（ヤムチャー）という特進コースの学生による自主運営の組織があります。YAMCHERとは、学生が付けたんですが、昨日ちょっと調べたら、Yamanashi Medical researCHER's clubで、YAMCHERということで、なかなかしゃれているのではないかと思います。飲茶クラブみたいで、仲よくやりましょうということです。あと、リエゾンラボというのがあります。基本的には研究はそれぞれの所属している講座でやっているんですが、共用研究スペースもあるということです。

特進コース生は学生のときから大学院の講義を聴くことができ、学生のうちに大学院の単位を取得することができます。そして、ある一定の審査基準を満たした学生は、卒業すると在学期間を短縮して博士号を取得することができます。普通は卒業して、臨床研修を2年して、すぐに大学院に入ったとしても大学院は4年ですから、卒後6年たないと大学院を卒業できないわけですけども、卒後に山梨大学の講座の大学院に入りますと、臨床実習をしながら3年で卒業するということができます。もちろん大学院の博士号の審査も受けなければいけないし、論文もインパクトファクターのある2点以上の雑誌にファーストオーサーとして出さなければならないなど結構それなりに厳しい。さらに、成果発表会とかリエゾン合宿で研究発表をしなければならないなど色々なハードルがあるんですが、それをクリアした者は3年で卒業できます。最近留学をする日本人の医者が減っていると言われてはいますが、特進生の中から卒後すぐにでも留学したいというような学生もぼつぼつ出ておまして、6年かかるところを3年で大学院を卒業できるというシステムは留学マインドを後押ししていると思います。

これはホームページから取ってきた写真とコメントですけども、「How do you picture your next 5years?」と、卒業生がかっこいいことを書いていますが、論文も書いて学会でも発表したり、優秀学生顕彰を取っています。こちらは今の現役生ですけども、YAMCHERの代表で、最初は興味がなかったけれども、研究をやっているうちにはまっちゃったみたいな、そういう学生のコメントが書いてあ

ります。

山梨大学のリエゾンアカデミーや特進コースについては、知っている人は結構知っていて、注目も集めているわけですが、もう少しプロパガンダしようということで、県内県外の色々な所にリエゾンアカデミーを宣伝するようなパンフレットやポスターを配布しております。私は毎年推薦入試の面接官をしているんですけど、「山梨大学には特進コースがあるから、数ある大学の中から選んで来ました」と言う学生もちらほらおります。

このスーパーサイエンスハイスクール授業というのは、リエゾンアカデミーから指定されたに高校に出向き、出張授業みたいな、サイエンスの面白さを伝えるというようなこともやっております。

学生が入学してきますと、すぐに活動を開始するようにしています。新入生の歓迎会のときに広報をして、詳しくは1年生に医学部で何を学べるかという教養総合講座があるんですが、その中で医師と医学研究をテーマにライフサイエンス特進コースの取り組みを紹介しています。これは90分授業です。ここで色々なことを詳しくお話しして、できるだけ研究に興味のある学生たちをリクルートできるようにしています。

平成25年度の参加講座を例として示しますが、基礎系9講座、臨床系6講座です。臨床系は段々増えてきています。在籍数は大体40人から50人です。平成27年度も大体同じです。臨床系が1つ減って、基礎系が1つ増えていますが、同じ位の学生が在籍しております。

活動内容ですけども、夏には関東四大学研究医養成コンソーシアムというのがありまして、東大、千葉大、群馬大、山梨大と4大学でやっております。平成24年度は、群馬大学が主幹で、伊香保温泉で行われました。平成25年度は山梨大学が主幹で、今日もいらしていますが小泉先生の肝いりで、ぜひ参加したいと言う北海道、東北、慶応、順天堂とか、いろんな大学が加わって、拡大版のコンソーシアムが甲府の石和温泉で行われました。去年は、千葉大が主幹でコンソーシアムが行われています。内容は大体ここに出ていますけれども、ポスター発表と口演発表、それから特別講演です。特別講演が2つ、3つあります。夜は……、これが意外と重要だと思うんですけども、宴会です。それぞれの大学で研究をしている学生たちが入り乱れて、お酒を飲みながらリサーチの話をすると、そういう会です。今年はぐるっと回って、群馬大学が主幹で、また伊香保温泉でありました。来年はまた山梨がやります。このコンソーシアムは非常に人気があって、関西にも同じようなものがあるらしいですけれども、関東地区はこれが非常に注目されていまして、ぜひ我々の大学も入れてくれみたいなことになって、規模が大きくなり過ぎて、予算や会場確保の点で嬉しい悲鳴をあげています。

秋には研究成果発表会というのをやっております。これが昨年度のもので、学生5、6人が発表しますが、学会のときみたいに完成されたものでなくて、ここまできていて、今度はこんなことをしたいみたいな、そして、みんなの意見を聞きみたい感じでやっています。一番いい発表の人には表彰状と

ともに、USBか何か記念品をあげるみたいな感じでやっております。

そして、YAMCHERがこういう先生を呼びたいと、学生が決めてやる特別セミナーがあり、1月か2月に行われます。この年は僕がたまたまヘルプしたので小児科の先生を呼びました。25年度は皮膚科の先生で、特別講演、フリーディスカッション、その後の懇親会みたいなことをやっております。これが特別セミナーのポスターです。

それから、2月末に一泊二日の冬期合宿を富士五湖周辺でやっております。大体このぐらいの人数です。ここでも学生の研究発表があり、テーマを決めて学生同士のディベートがあつたり、夜の宴会が延々と続くとか、色々あって、結構楽しい会になります。25年度は雪のために中止となったのですが、山梨が陸の孤島になった時期で、今まで、歴史上こんなに降ったことはないらしいです。長野県から随分助けをいただいて、何とか復興したと聞いています。これが昨年です。朝はみんなで河口湖の周りを散歩しながらディスカッションするということになっております。特別講演には東大の尾藤先生に来てもらってお話いただき、夜の宴会にも参加していただいて、本当にこういう機会はほとんどないですから、学生にとっては非常にプラスになっていると思っています。

特別カリキュラムとして色々なものあるんですけども、先端基礎医学講義というのがあって、研究に必要な基礎的な技術的講義を受けられます。また、大学院博士課程の講義を学生のときから受けられます。それから、国内・国外の短期留学を支援しています。ただ、これは予算の関係があるので、誰でもというわけにはいかないんです。学生本人が学会発表をする場合にはできるだけ、それが国内であっても国外であっても、参加を支援するという形でやっております。そして、イングリッシュサロンというのがありまして、ルーク先生とともに、英語のフリートークに加えてディベートを行うことで、英会話に親しんで、英語で討論する力を養うということを目的にしております。これは結構厳しくて、試験を通らないともう1回みたいなこともあるようですが、こういうことがフリーで受けられるということは、学生にとっては非常にメリットがあるのではないかというふうに思っております。

それでは、受賞、表彰の実績を紹介いたします。平成24年度は、日本学生支援機構の奨励賞、大賞を獲得しました。サイエンス・インカレというのが東京で毎年あるんですけども、医学部はあまり参加していなくて、山梨大学もこのとき初めて参加したですけども、ファーストプライズの文部科学大臣賞とセカンドプライズの科学技術振興機構理事長賞をいただきました。25年度はちょっと見劣りしますが、色々な研究会で優秀賞をもらっております。26年度はサイエンス・インカレで、DERUKUI（でるくい）賞という面白い賞をいただいています。出る杭は打たれますから、打たれる位に杭を出せと、そういう意味ではないかと思えます。

論文リストですけども、この太字下線が特待生ということです。平成24年度は英文原著論文7報、25年度は6報です、26年度と27年度は3報と少なめですが、全て筆頭論文です。国内外の学会発表も

毎年活発に行われています。このように継続的に学生が研究業績を発表しているという状況があります。これも文科省からの援助があつての賜物だというふうに感謝しております。

せっかくの機会なので、私は小児科医なので、ちょっとだけ小児科の話をして、終わりたいと思います。2012年、笠井君と安藤さんという私が面倒を見ていた学生2人がアトランタで行われた米国血液学会（ASH、アッシュ）でポスター発表をしました。ポスター発表でも50%ぐらいの採択率なので、取ってくれてよかったなあという感じでした。これはポスターの前で、笠井君と一緒に撮った写真です。彼は小児科の大学院に入って、今でも臨床をしながら研究をやっています。これは安藤さんのポスターで、今はポスター原稿を送ると、1枚の紙にしてくれて、学会会場で受け取って貼ることがほとんどです。こうやって、立派に発表していました。

これは汚い医局の写真ですが、2人でこんな感じで僕が居ると居ないと関係なく、昼休みに医局にやってきて、勝手におしゃべりしています。勿論真面目に実験もすると。これがちょうど成果発表会で彼女が最優秀賞を受賞した写真です。彼女は厚生労働省に行きたいと言っておりますので、佐々木先生、宜しく願いいたします。後で加藤君の発表があると思いますけれども、彼は今3年生で、白血病の研究をしております。

これでほとんど終わりなんですけど、基礎講座で特進コースを卒業された人のほうが臨床系よりもずっと多いわけです。特進コースを卒業して、しかも論文をちゃんと書いて、医学博士を卒後3年で取得した2名の医師がいますが、ありがたいことに小児科に入局してくれました。今臨床をしているわけですが、平日夜とか土日祭日に大学に来て研究をやっているということで、この2人と今年はサンディエゴのASHに参加します。1人は口演、1人はポスターで、またASHに行けるのは、これもリエゾンのおかげかなというふうに非常に感謝をしております。

これが最後のスライドですが、さらなる充実した活動をしたいと考えています。このさらなる充実した活動をするためには、今年度が最終年度ですので、この活動を支援していただけるようなネクストのプログラムの募集がきっとあるであろうということで、しっかり準備をしておこうということになっています。山梨大学から申請がありましたときには、同じ横手の出身者ということで、温かいお気持ちで審査していただけると大変ありがたいと思います。

ご清聴をありがとうございました。

○司会 杉田先生、ありがとうございました。

山梨大学のアカデミックな素晴らしいご成果に感銘を受けました。ありがとうございます。